

鎌倉時代語研究文献目録稿 (二)

金子 彰

凡例

- 一、本目録は、本誌第一輯「鎌倉時代語研究文献目録稿」に続くものである。本輯の構成は次の三部から成る。
 - (一) 補遺編
 - (二) 著者索引
 - (三) 文献索引

(一) 補遺編凡例

- 1 研究文献の採録にあたっては、第一輯の方針に従った。
 - 1 採録の基準として研究対象の時代は、院政・鎌倉・南北朝期である。研究の一部で、上記の時代を扱ったものも採録にとめた。
 - 2 不採録のものは次のものに多い。
 - (a) 単行の概説書類
 - (b) 書評・紹介・月報類
 - (c) 資料紹介・翻刻・伝本研究等の書誌的研究
 - (d) 校注・注釈書類
 - (e) 講座類の中の一々の論考
 - 3 研究分野を第一輯の分類項目にほぼ従って分類して、研究文献を分属せしめた。(凡例末尾参照)
 - 4 各分野毎の研究文献の配列方法は、以下の通りである。
 - (a) 鎌倉時代語全般研究を最初に配列する。
 - (b) 更に、以下のジャンル順に下位分類して配列する。
 - (1) 辞書・音義
 - (2) 巻曇
 - (3) 訓点資料
 - (4) 和歌・歌謡・連歌
 - (5) 物語・日記

- (6) 隨筆
- (7) 紀行
- (8) 記録
- (9) 史書・史論
- (10) 軍記物語
- (11) 説話
- (12) 法語

(C) 同一作品は、研究発表順に配列する。

5 研究文献の記載は、上から次の順に示す。

(a) 論文題目 (b) 執筆者 (c) 所収文献 (数字は巻・号) 発行所 (d) 発表年月日

6 記載方法は、新字体で統一し、著書と論文を「」で区別せず無注記とした。

一、本冊に採録した研究論文には通し番号を付けた。

一、採録した論文は、第一輯(昭和52年12月まで)の遺漏分と昭和53年12月までの追加分である。

(二) 著者索引凡例

一、第一輯・第二輯所載の「鎌倉時代語研究文献目録稿」中の著書・論文の執筆者名を採録した索引である。

一、配列は五十音順である。

一、1 漢数字は、第一輯所載の頁数である。

2 算用数字は、第二輯所載の論文番号である。

(三) 文献索引凡例

一、第一輯・第二輯所載の「鎌倉時代語研究文献目録稿」中の著書・論文の題目に見られる文献名を採録した索引である。

一、配列方法他 (二) 著者索引凡例に従う。

文獻目錄項目一覽

一、 總記

I 總說

- 1 鎌倉時代語研究
- 2 關連研究

II 資料研究

- 1 古辭書
- 2 訓点資料
- 3 和歌・歌謠・連歌
- 4 物語
- 5 隨筆
- 6 記録・注釈書
- 7 史書・歴史物語
- 8 軍記物語
- 9 説話
- 10 經文・法語

二、 文字・表記

I 總說

- 1 文字・表記全般
- 2 作品研究

II 各説

- 1 漢字
- 2 仮名
- 3 仮名遣
- 4 補助符号

三、 音韻

I 總說

II 国語音

- 1 作品研究
- 2 音声・音韻全般
- 3 初音
- 4 音便
- 5 長音
- 6 連声・連濁
- 7 母音交替
- 8 子音
- 9 濁音

III 漢字音

- 1 作品研究
- 2 音声・音韻全般
- 3 初音・直音

4 入声音

5 音便

6 清濁

IV アクセント

1 国語音

2 漢字音

四、 語彙

I 總說

- 1 全般
- 2 作品研究
- 3 漢語
- 4 訓詁語

II 各説

- 1 語史・語詞
- 2 副詞
- 3 形容詞
- 4 動詞
- 5 接辞

五、 語法

I 總說

II 資料研究

III 各説

1 訓詁語法

2 体言止・係り結び

3 複合語

4 代名詞

5 活用

6 動詞

7 副詞・形容詞

8 助動詞

9 助詞

六、 文章・文体・表現法

I 總說

1 文章

2 文体

3 表現法

4 敬語法

II 資料研究

1 文章・文体

2 表現法

3 敬語法

八七、 位相・言語生活索引

(一) 補遺編

一、総記

Ⅰ 総説

1 鎌倉時代語研究

- 1 国語学研究辞典
- 2 講座国語史Ⅰ 国語史総論
- 3 国語の歴史
- 4 叡山浄土教古文献の調査と研究
- 5 石山寺の歴史と文化財
- 6 紀州浄福寺意空と節(い)学僧につ(い)て抄笈の著者
- 7 醍醐寺蔵本「傳法灌頂師資相承血脈」

2 関連研究

佐藤喜代治	明治書院	昭52・11
佐藤哲英	東京大学出版会	昭52・11
中田祝夫	仏教学研究25	昭43・5
中田祝夫	石山寺の研究一切経篇	昭53・3
中田祝夫	法蔵館の研究一切経篇	昭49・3
中田祝夫	永山勇博士退官記念国語山論集・風間書房	昭49・3
中田祝夫	醍醐寺文化財研究所	昭53・11

II 資料研究

I 古辞書

8	山田忠雄 徳本邦辞書史論叢	三省堂	昭42.2
9	平安時代における辞書の性格——漢字辞書と歌語辞書——	岩淵 匡	昭39.12
10	古辞書入門	築島 裕	昭28.10
11	石山寺蔵の字音・音義について	沼本克明	昭53.3
12	中世辞書の「遊仙窟」訓	平井秀文	昭50.9.11
13	新興撰大般若経音訓について	築島 裕	昭50.9.11
14	大般若経音義解題	築島 裕	昭53.9
15	無窮公本系大般若経音義附載の篇立音義について	築島 裕	昭52.11
16	大般若経字抄について	岡井慎吾	昭12.2
17	和訓よりみた「新撰字鏡」と「観智院本類聚名義抄」について高瀬正一	高瀬正一	昭53.6
18	圖書寮本類聚名義抄に見える篆隸万象名義について	宮沢俊雅	昭48.7
19	圖書寮本類聚名義抄と妙法蓮華経釈文	宮沢俊雅	昭52.11
20	解題類聚名義抄	吉田金彦	昭51.11
21	類聚名義抄の和訓の研究法	吉田金彦	昭52.4
22	類聚名義抄——観智院本と蓮成院本との「雑」部の比較対照(上)——	犬飼弁童	昭52.2
23	黒川真前氏蔵色葉字類抄解説	山田孝雄	昭3.5
24	色葉字類抄解説	山田孝雄	昭15.9
25	永禄八年字色葉字類抄(二巻本)について	鈴木真喜男	昭42.2
26	永禄八年字色葉字類抄(二巻本)解説	川瀬一馬	昭41.12

27	色葉（伊呂波）字類抄	青木 孝	和漢國文學研究會 國語学	昭36	1
28	色葉字類抄考証第一	佐藤喜代治	文化	昭27	372
29	色葉字類抄考証（第三）	佐藤喜代治	東北大学文学部研究年報	昭28	12
30	二巻本世俗字類抄攷——附高麗國教詞の一資料——	岡田希雄	日本文化	昭11	7
31	伊呂波字類抄の成立について	河村正夫	国学	昭11	7
32	伊呂波字類抄解題	山田孝雄	伊呂波字類抄複製	昭3	6
33	『伊呂波字類抄』三巻本から十巻本へ——本文篇——	木村 晟	駒沢国文	昭53	3
35	色葉字類抄置字門語彙の出入について——三巻本と十巻本の比較	青木 孝	青山学院女子短期大学	昭38	11
36	三巻本『色葉字類抄』に見える「俗」注記の意義について	峰岸 明	文学論叢	昭40	11
37	色葉字類抄置字門の語の注「——詞」の意義	山田俊雄	山田孝雄 史学 語学論集	昭38	7
38	色葉字類抄「辞字」考	青木 孝	青山学院女子短期大学	昭32	11
39	色葉字類抄の「辞字」について	青木 孝	国語学	昭41	11
40	色葉字類抄と遊仙窟	葦中 進	神户学大論叢	昭40	6
41	一節用集と色葉字類抄	山田忠雄	出雲短期大学 本邦辞書史論叢	昭42	2
42	世俗字類抄・節用文字から色葉字類抄へ	若杉哲男	出雲短期大学 本邦辞書史論叢	昭42	2
43	詩苑韻集の部類立と色葉字類抄	吉田金彦	山田孝雄 本邦辞書史論叢	昭42	2
44	古代語研究會 開説準備室 『色葉字類抄』の索引作成	川瀬一馬	国立国語研究所年報	昭38	10
45	室町中期写世俗字類抄（七巻本）解題	三宅ちぐさ	室町中期写世俗字類抄	昭48	7
46	『世俗字類抄』にみられる出典注記	山田孝雄	岡大国文論稿	昭53	3
47	節用文字の位置——色葉字類抄及び世俗字類抄との比較より見た宇野つる子	山田孝雄	国語と国文学	昭24	7
48	徳富猪一郎氏蔵節用文字解説	成城文芸	徳富猪一郎氏蔵 節用文字 複製	昭7	1
49	色葉字類抄置字門の訓読の語の性質——古辞書研究の意義にふれて——山田俊雄	成城文芸	成城文芸	昭30	4

2 訓点資料

- 49 点本書目
- 50 訓点資料刊行本目録
- 51 新版点本書目
- 52 吉沢義則編「点本書目」の補正（その一・二）
- 53 訓点資料と訓点語の研究 改訂版
- 54 点本入門
- 55 古点本の国語学的研究 総論篇
- 56 古訓点の研究
- 57 訓点語の研究
- 58 平安時代の漢文訓読語につきての研究
- 59 訓点資料の研究
- 60 訓点資料ととの取扱（）
- 61 訓点資料研究の足迹
- 62 国語学の新領域 訓点資料・記録資料
- 63 古本点図二種
- 64 点図の古形
- 65 「点図集」の成立について
- 66 点図集（稿本）

吉沢義則	岩波講座日本文学	6	昭6
築島裕	訓点語と訓点資料	3	昭29・12
遠藤嘉基	明治書院		昭32
遠藤嘉基	訓点語と訓点資料	12・13	昭34・28
遠藤嘉基	京都大学国文学会		昭27・28
遠藤嘉基	中央図書	10	昭46・9
中田祝夫	講談社		昭29・3
春日政治	風間書房		昭31
大坪併治	風間書房		昭36
築島裕	東京大学出版会		昭38
大坪併治	風間書房		昭43
築島裕	国語と国文学	37・10	昭35・10
立浜文雄	訓点語と訓点資料	25	昭38・3
小林芳規	文学・語学	48	昭43・6
中田祝夫			昭30
築島裕	二松学舎大学論集		昭39・3
築島裕	国語と国文学	42・12	昭40・12
築島裕	私家版		昭44・6

67	天台宗のヨコト点について	柴島 裕	訓点語と訓点資料	32	昭41・2
68	天台宗の古訓点について	柴島 裕	伝教大師研究		昭48・6
69	石山寺経蔵の古点本類について	柴島 裕	仏教芸術	94	昭48・12
70	石山寺所蔵の角鑿点資料について	小林芳規	仏教芸術	94	昭48・12
71	高山寺経蔵古訓点本の調査研究 ——古訓点研究手法についての一試論——	柴島 裕	国語学	109	昭52・6
72	国語史料としての東急文庫蔵本	柴島 裕	第8回文化講座 三リ1 訓点語と訓点資料 11章		昭39・3
73	訓点拾遺五題	吉田金彦	本島大学文学部紀要		昭34・3
74	訓点資料に現れた中世語について	小林芳規	本島大学文学部紀要		昭48・1
75	群書治要と解説	図書寮	宮内省図書寮		昭16
76	金沢文庫本群書治要卷四十所収三略の訓点	小林芳規	田山方南先生華甲記念 論文集と訓点資料	5	昭38・10
77	古文孝経序の訓読文四種	小林芳規	国語国文		昭30・10
78	旧鈔本史記孝景本紀第十一に用ひられた訓点について	藤枝徳三	国語国文		昭11・4
79	史記古鈔本孝景本紀について	水沢利忠	かがみ	7	昭37・3
80	岩崎男爵家蔵春秋経伝集解卷第十と解説	山田孝雄	古典保存会		昭7
81	金沢文庫本春秋経伝集解について 平安初期浅層訓読語の残存	小林芳規	訓点語と訓点資料	25	昭38・3
82	尚書及び日本書紀古鈔本に加へられたる乎古止点に就きて	吉沢義則	国語国文の研究		昭2
83	和歌 桑中吟延慶二年書写加点点本	小林芳規	岩波書店 訓点語と訓点資料	41	昭45・6
84	猿投神社蔵帝範巨軌鎌倉末期点	西崎 孝	奈良教育大学国文研究		昭53・8
85	神田喜一郎氏蔵白氏文集卷三巻四と解説	橋本進吉	教育2 古典保存会		昭2
86	神田本白氏文集の訓の類別	小林芳規	国語と国文学	32	昭30・1
87	平安朝伝来の白氏文集と三蹟の研究	小松茂美	墨水書房		昭40

- 81 細紗春秋経伝集解に於ける類業の訓説とその伝受
- 89 神田喜一郎氏蔵本文集卷三、四について
- 90 附音増広古註蒙求と「蒙求和歌」の古写本とに就て
- 91 猿投神社蔵正文選(一)(二)(三)(四)
- 92 九条本文選に残存せる上代訓詁語について
- 93 九条本文選古訓集(一)(二)(三)(四)
- 94 猿投神社蔵本文選卷第一弘安点
- 95 「醍醐寺本遊仙窟」解題
- 96 醍醐寺本遊仙窟の和訓について
- 97 真福寺本遊仙窟攷
- 98 真福寺本遊仙窟釈文稿
- 99 「真福寺本遊仙窟」解説
- 100 神宮文庫本遊仙窟釈文稿
- 101 神宮文庫本遊仙窟の和訓の系統
- 102 慶應義塾図書館蔵双注別本遊仙窟の和訓について
- 103 遊仙窟四本丁教行教対較表
- 104 遊仙窟の傍訓をめぐって
- 105 和訓からみた遊仙窟の諸本
- 106 遊仙窟「管家本」攷
- 107 老子経の古訓法
- 108 論語訓詁史から見た論語集解建武本の訓点

鎌田 正	書陵部紀要 8	昭 32	3
太田次男	斯道文庫論集 14	昭 52	12
神田秀夫	上野図書館紀要 2	昭 30	6
小林芳規	訓点語と訓点資料 14	昭 36	35
小林芳規	訓点語と訓点資料 32	昭 41	10
中村宗彦	私家版	昭 50	44
築島 裕	日本漢文学史論考	昭 49	5247
山田孝雄	岩波書店	大 15	
宇都宮睦男	古尊保存会	大 15	
宇都宮睦男	鈴峯女子短期大学 科学研究集報 国語と国文学	昭 13	4
平井秀文	福岡学芸大学紀要 2	昭 28	3
平井秀文	貴重古帙籍刊行会	昭 29	
神田喜一郎	福岡学芸大学紀要 9	昭 35	3
平井秀文	鈴峯女子短期大学 社会科学部 社会科学部 国語と訓点資料	昭 47	1
宇都宮睦男	社会科学部 国語と訓点資料	昭 48	1
宇都宮睦男	社会科学部 国語と訓点資料	昭 29	8
水田紀久	訓点語と訓点資料 2	昭 31	4
川島憲之	訓点語と訓点資料 6	昭 31	7
吉田金秀	国語国文 25	昭 31	7
平井秀文	語文研究 10	昭 35	5
小林芳規	漢文教室 69	昭 39	10
小林芳規	かがみ 12	昭 43	3

109	西南院本甘露軍荼利菩薩供養念誦成就儀軌康和点	曾田文雄	訓点語と訓点資料17	昭35	6
110	鹽竈甘露軍荼利菩薩供養念誦成就儀軌康和点 <small>併 解読文(一)(三)(四)</small>	曾田文雄	訓点語と訓点資料19	昭37	21
111	高山寺藏康和和尚之碑文古点	山口佳紀	訓点語と訓点資料21	昭42	24
112	九州大学蔵「金剛頂瑜伽經第一」古点より	春日和男	訓点語と訓点資料54	昭49	5
113	五島美術館蔵金光明最勝王經古点について	藥島裕	かがみ9	昭39	3
114	<small>大藏院記</small> 三教治道篇保安点	藥島裕	かがみ8	昭38	3
115	<small>真大寺 圖書館本</small> 釈摩訶衍論保安点	中田稔夫	訓点語と訓点資料16	昭36	4
116	蘇悉地經につきて	田中海庵	密教41		
117	<small>天北大学 圖書館蔵</small> ・蘇悉地羯羅經古点	村上雅孝	共立女子大学文学部	昭48	5
118	蘇悉地羯羅經の古点本	三保忠夫	紀等20	昭50	8
119	蘇悉地羯羅經古点の訓詁法	三保忠夫	訓点語と訓点資料56	昭50	8
120	蘇悉地羯羅經古点の一本より	春日和男	国語学102	昭50	9
121	叡山文庫蔵息心抄について	藥島裕	国語国文46	昭52	4
122	旧恩頼堂文库本胎蔵儀軌卷下の訓点について	門前正彦	東京大学教養学部人文	昭38	5
123	知恩院蔵大唐三蔵玄奘法師表啓古点	藥島裕	国語国文46	昭52	4
124	禪福大慈恩寺三蔵法師古点の国語学的研究 <small>訳文篇・研究篇</small>	藥島裕	訓点語と訓点資料4	昭30	5
125	石山寺本大唐西域記の和訓	藥島裕	東京大学出版会	昭40	42
126	安田八幡宮蔵大般若波羅密多經に就きて	東辻保和	東京大学教養学部人文	昭37	2
127	大毘盧遮那成佛經二点——金剛頂弁藏本と長尾卯吉氏藏本と——	東辻保和	海潮史学8	昭45	6
128	広島大学蔵八字文殊儀軌古点——本文・校異・譯文——	井上親雄	訓点語と訓点資料54	昭49	5
129	九州大学蔵八字文殊儀軌古点について	田尻英三	訓点語と訓点資料39	昭43	10
130	広島大学蔵仏説六字神呪王經の訓点	三保忠夫	<small>春日和男教授 墨宮記念</small> 語文論叢	昭53	
			国文学攷59	昭47	4

- 131 立本寺藏妙法蓮華經古点
- 132 法華經釈文について
- 133 西教寺本秘藏宝鑰朱点の調査報告
- 134 西教寺本秘藏宝鑰解読文(上)
- 135 秘藏宝鑰卷中解読
- 136 法隆寺本辯正論保安点
- 137 愛大寺図書館藏本法華授釈治承点
- 138 新撰朗詠集承久二年書写加点本の訓の系統について
- 139 梁塵秘抄羅訓考
- 140 前田本日本書紀院政期点(本文篇)
- 141 前田本日本書紀院政期点(本文篇補)
- 142 前田本日本書紀院政期点(研究篇)
- 143 将門記の訓点
- 144 承德本将門記の訓点
- 145 楊弁敬旧蔵本「将門記」の和訓の性格について
- 146 内閣文庫蔵北条香妻鏡訓点考
- 147 漢文訓読文の和文化的過程について
——「唐征伝絵詞」の場合をとおして

門前正彦	訓点語と訓点資料	4	昭43	12
吉田金彦	国語国文	21, 2	昭27	2
曾田文雄	訓点語と訓点資料	41	昭45	6
岸田文雄	訓点語と訓点資料	42	昭45	10
曾田文雄	訓点語と訓点資料	43	昭46	3
岸田文雄	訓点語と訓点資料	43	昭53	
栗島裕	文学・語学	33	昭39	
小林芳規	王朝文学	10	昭39	5
榎克朗	国語国文	18, 5	昭24	5
石塚晴通	北海道大学文学部	紀要	昭52	3
石塚晴通	北海道大学文学部	紀要	昭52	12
石塚晴通	北海道大学文学部	紀要	昭53	3
岡田希雄	立命館文学	2, 7, 26	昭10	7
平井秀文	国語国文	5, 9	昭10	9
坂詰力治	文学論叢	36	昭42	5
青木孝	青山学院女子短期大学	紀要	昭47	
西崎喜	解釈	19, 26, 8	昭48	8

3 和歌・歌謡・遠歌

- 148 元永本古今和歌集の書写に関する一問題
- 149 中世歌論に於ける「こ」と「つづき」に就いて（覚書）（上）
- 150 古今集延五記 院内期家論を中心に
- 151 田植草紙のことば
- 152 親鸞聖人真蹟三帖和讃国宝本の研究
- 153 国語研究資料「和讃出業」翻刻・各論—1—
- 154 寂庵秘抄私見四首
- 155 私たちはこのようにして「深産秘抄」索引を作った
- 156 「附音増康古註蒙求」と「蒙求和歌」の古写本とに就て

4 物語

5 随筆

- 157 未刊「徒然草注釈書」三十余部——上、下——
- 158 大福光舟本「方丈記」に関する研究

春日和男	語文研究4.5	昭30.12
北山正迪	北華女子大学研究紀要	昭52.12
秋永一代	笠間書院	昭53
山内洋一郎	田植草紙の研究	昭47.6
秋葉安太郎	三弥井書店	昭40.3
中川浩文	語文（日大）	昭43.11
山内洋一郎	巻谷大学論集	昭33.3
大久保強	中世文芸	昭35.8
福永順	王朝文学4	
神田秀夫	上野図書館紀要2	

小松 操	金沢文庫研究13	昭42.10
山崎淳子	二松学舎大人文論叢	昭52.10

6 記録・注釈書

- 159 記録古文書語彙抄 アーコ サ、ソ
- 160 真福寺本将門記解説
- 161 記録体の性格——吾妻鏡を中心として——
- 162 真福寺藏類聚府注と鎌倉時代の文集受容について
付新集府注印
- 163 国語史料としての真福寺藏新集府注正嘉元年書写本
- 164 解脫門義聴集記
- 165 西大 寺藏 興正菩薩御教誡聴聞集について、三の覚之書き——
近代語的専象
- 166 高山寺藏鎌倉時代後期写題末詳仏書注釈書
- 167 国語史料としての興文炳博士蔵本自行三時礼功德美
- 168 室町時代以前に於ける洞注孝經の講誦伝統について
清原旧蔵鎌倉本開元始注孝經御注訓読文
- 169 中世語史料としての『伏見宮文祝談』について
- 170 日本教科書大系 1・2 古往来 1・2
- 171 平安時代仮名書状の研究
- 172 消息詞・書状文字抄——本文篇——
- 173 索引作成メモ（高山本古往来）
- 174 明憲上人資料第一
- 175 明憲上人資料第二

藤原照実	私家版	昭 25
山田孝雄	古典保存会	大 14
松下貞三	国語国文 20、12	昭 26、11
太田次男	斯道文庫論集 7	昭 44、10
来田 隆	鎌倉時代語研究 1	昭 53、3
納富常天	金沢文庫研究紀要 4	昭 42、3
西崎 亨	解釈 23、8	昭 52、8
柳田征司	鎌倉時代語研究 1	昭 53、3
三保忠夫	広島大学文学部紀要	昭 51、1
阿部隆一	斯道文庫論集 4	昭 40、3
西崎 亨	解釈 23、4	昭 52、4
久曾神昇	講談社	昭 24
三保忠夫	風聞書房	昭 43
坂詰力治	文経論叢 13、5	昭 43、10
高山寺藏	王朝文学 12	昭 53、3
合調査団	高山寺資料叢書 1	昭 40、11
	高山寺資料叢書 7	昭 46、3
	東京大学出版会	昭 53、3
	東京大学出版会	
	東京大学出版会	

7 史書・歴史物語

8 軍記物語

176 ロドリゲス日本文典に引用せられた平家物語

高橋貞一

應隆 28

昭 44, 11

9 説話

177 宇治拾遺物語書詠的研究 一・二

小川寿一

歴史と国文学

昭 7, 10

178 宇治拾遺物語の一本より——世継物語私考——

春日政治

文学研究 9

昭 9, 10

179 打聞集と宇治拾遺・今昔物語の関係

片寄正義

書誌学

昭 16, 6

180 今昔物語集における言語の問題

馬淵和男

解釈と鑑賞 24, 7

昭 34, 6

181 金沢文庫本仏教説話集の錯簡について

山内洋一郎

金沢文庫研究 193

昭 42, 7

182 金沢文庫蔵『仏教説話集』の構成について

山内洋一郎

国語と国文学 44, 7

昭 47, 5

183 関戸家本三宝絵詞東大寺切の本文について 「説話の語文」補正

春日和男

文学研究 (九大)

昭 52, 3

184 高山寺蔵『三宝絵』詞章還文

小林芳規

鎌倉時代語研究 1

昭 53, 3

185 法華修法百座聞書抄総索引作成メモ

宮田裕行

王朝文学 9

昭 38, 10

- 186 石山寺の写経・聖教
- 187 石山寺の研究 一切経寫
- 188 石山寺の重書類について
- 189 石山寺一切経について
- 190 興福寺本往生尊集 二
- 191 正法眼蔵の国語学的研究 資料稿
- 192 田島毓堂博士著「正法眼蔵の国語学的研究」書評
- 193 田島毓堂著「正法眼蔵の国語学的研究」書評
- 194 日蓮聖人遺文の文献学的研究
- 195 日蓮聖人遺文の国語学的研究 X 七

田中 稔	石山寺文化財 綜合調査団	法蔵館	昭48・12
綾村 宏	石山寺の研究	法蔵館	昭53・3
田中 稔	石山寺の研究	法蔵館	昭53・3
鈴木 一男	法蔵館の研究	法蔵館	昭53・3
田島毓堂	南都仏教	空閑書院	昭47・6
小島幸枝	東海学園国語園文	東海学園国語園文	昭52・8
水野弥穂子	国語と国文学	国語と国文学	昭53・2
鈴木 一成	山喜房仏書林	山喜房仏書林	昭40
春日正三	文芸論叢	文芸論叢	昭43・2

二 文字・表記

I 総説

1 文字表記全般

- 196 文字論のために
- 197 表記論の諸問題
- 198 国語の文字の変遷

池上 稜造	国語学	昭30・12
浜田 敦	国語園文	昭36・3
山田 俊雄	国語教育のための国語講座	昭36・3

2 作品研究

- 199 訓点記載の二様式についての報告
 200 角筆点所用の訓点資料について
 201 石山寺所蔵の角筆点資料について
 202 角筆点資料における石山寺蔵本の位置
 203 真名本の意義
 204 「宇治拾遺物語」のハ笑イの表記の問題についての一考察
 205 「平家物語」渡辺党の表記
- | | | | |
|------|------------------|------|----|
| 小林芳規 | 訓点語と訓点資料 24 | 昭 37 | 12 |
| 小林芳規 | 国文学言語と文芸 44 | 昭 41 | 1 |
| 小林芳規 | 仏教芸術 94 | 昭 48 | 12 |
| 小林芳規 | 石山寺の研究 | 昭 53 | 3 |
| 山田俊雄 | 法蔵館
国語と国文学 34 | 昭 32 | 10 |
| 福永義臣 | 国語国文研究(熊本大) | 昭 49 | 12 |
| 赤羽 学 | 国語国文研究(熊本大) | 昭 52 | 8 |
| | 解説 23 | 昭 52 | 8 |

II 各説

1 漢字

- 206 「せし」字の訓読考——「なり」の表記としての「せし」字
 207 「跨」字の和訓をめぐって——その表記と音韻と意味——
 208 「兼燭」及び「小考」
 209 句——漢字の変体としての和字
 210 色葉字類抄に見える漢字の字体・用法の注記についての研究(一)
 211 色葉字類抄に見える漢字の字体・用法の注記についての研究(二)
 212 西本願寺本三十六人集の字彙(7)完
 第十九筆・第二十筆——付前稿(6)の訂正
- | | | | |
|------|----------------------|------|----|
| 春日和男 | 文学研究 54 | 昭 31 | 3 |
| 吉田金彦 | 訓点語と訓点資料 10 | 昭 33 | 10 |
| 遠藤好英 | 在伯羅反博士
古稀記念 国語学論集 | 昭 44 | 6 |
| 大野 透 | 国学院雑誌 78 | 昭 52 | 6 |
| 山田俊雄 | 成城文芸 21 | 昭 35 | 3 |
| 山田俊雄 | 成城文芸 24 | 昭 35 | 12 |
| 松本映子 | 藤女子大・藤女子短大
紀要 14 | 昭 51 | 12 |

213	藤原定家自筆本平仮名三種における和語表記の漢字		
214	高山寺本古往来異体字一覽	村田正英	鎌倉時代語研究 1 昭53・3
215	公家日記に見える「所(所)」字の用法について ——平安時代の資料を対象に——	河野福海 小山登久	高山寺本古往来表白集 昭47・3 東京大学出版会 愛媛国文研究 18 昭52・4
216	記録体の一考察 ——平安時代の公家日記類を中心に——	小山登久	国語国文 46・4
217	使用漢字集合考察の端緒 ——前田家蔵本三宝絵の表記に用いられた漢字字種の調査——	正木好弘	成城国文 1 昭49・3
218	「打聞集」における漢字の用法	栗辻保和	鎌倉時代語研究 1 昭53・3
219	金沢文庫蔵仏教説話集の漢字字体	山内洋一郎	鎌倉時代語研究 1 昭53・3
220	法華百座聞書抄異体字一覽	胡子福海	法華百座聞書抄總索引 昭50・3
221	漢字字形の史的把握 —— 「般若心経」による試み ——	佐藤 繪	国語学 114 昭53・9

2 仮名

222	平仮名の研究	吉沢義則	国語科字講座 昭9・12
223	片仮名平仮名	大坪併治	岩波講座日本語8文字 昭52・3
224	仮名字体の伝受	曾田文雄	国語国文 25・2 昭31・2
225	仮名字体の伝受続攷 —— 「ルレ(セ)」の字体について ——	曾田文雄	訓点語と訓点資料 27 昭38・9
226	西園院本「無量壽尊 <small>念誦次第法</small> 」の仮名 ——「仮名字体の伝受」補遺——	曾田文雄	訓点語と訓点資料 13 昭35・2
227	神田本白代文集仮名字体表補正	水田紀久	訓点語と訓点資料 7 昭31・8
228	片仮名の用法 —— 観智院本三宝絵詞における仮名併用 ——	榎田良照	語文研究 44・45 昭53・6
229	足利本仮名書き法華經の用字法について	林 義雄	二松学舎大学論集創立 昭52・10 百年記念 国文学堂

3 仮名遣

- 230 仮名づかひの歴史
- 231 「古今集延五記」の表記について 八行転呼音を中心に
- 232 藤原定家の仮名遣
- 233 親鸞の仮名づかひ

大野 晋
田辺佳代
迫野康徳
金子 彰

岩波講座日本語8文字昭52-3
国文学研究(早大) 昭52-10
春日初男教授
退官記念 語文論叢 昭53
国文学攷 76 昭53-1

4 補助符号

三 音韻

I 総説

- 234 国語の音韻の変遷

馬淵和夫

国語教育のための理論 国語 昭33
講座2 音声の理論

II 国語音

1 作品研究

235 中世語音韻史料としての「論議」
236 平家音楽史

梅井茂治
館山漸之進

国学院雜誌 78・11
藝林舎

昭52・11
昭53・5

2 音声・音韻全般

3 拗音

4 音便

237 「更大弁切」に見える音便現象について

春日和男

春日和男教授
退官記念 語文論叢

昭53

5 長音

6 連声・連濁

7 母音交替

238 国語におけるマ行音バ行音交替現象について

上野利昭

国語学研究 66 (早大) 昭53・10

8 子音

9 濁音

239 清濁について

240 清濁参考資料一覽 平家物語

241 清濁参考資料一覽

伊丹 昇	解説16, 5	昭45, 6
金田一春彦他	日本古典文学大系33	昭35, 11
永積安明	日本古碑文学大系31	昭36, 7
島田勇雄		

III 漢字音

1 作品研究

242 韻鏡の研究

243 安田八幡官殿大般若波羅蜜多經の音注(資料)

244 圖書寮本類聚名義抄の和音注の性格

245 圖書寮本類聚名義抄「真興音(和音)」論綴貂

246 宋音般若心經

三沢諒治郎	韻鏡研究会	昭35
東辻保和	訓点語と訓点資料44	昭46, 6
田尻英三	語文研究33	昭47, 5
沼本克明	国語と国文学55, 10	昭53, 10
水田紀久	国語音48	昭37, 3

2 音声・音韻全般

247 日本漢字音の体系

248 法華經字音説に於る吳音と漢音の問題

249 類聚名義抄の吳音の性格

250 公任卿云「吳音」

奥村三雄	訓点語と訓点資料6	昭31, 4
沼本克明	金沢文庫研究30, 9	
渡辺 修	大妻女子大学文学部紀	
高松政雄	国語と国文学42, 3	昭40, 3

251 「吳音」の中の異形——真宗伝承音より——

高松政雄

岐阜大学国語国文学 昭53・3

3 拗音・直音

252 二巻本色葉字類抄における字音注の所在、および、直音注

鈴木真喜男

文芸と思想 28 昭41・3

253 三巻本色葉字類抄の漢字音標記——直音注について——

鈴木真喜男

文芸と思想 24 昭38・2

4 入声音

5 音便

254 バ・夕行音の前の聲音的要素は上代中古に溯り得るか

岡本 勲

国語国文 38・5 昭44・5

6 清濁

255 三巻本色葉字類抄の中の漢字音の清濁一、二について

山田俊雄

成城文芸 25 昭36・3

256 前田家本色葉字類抄疊字門の字音声点——清濁表示の考察——

黒沢弘光

国文学言語と文芸 54 昭42・9

257 日本漢字音に於ける韻子音の清濁(上)(下)

岡本 勲

国語国文 37・12 昭43・12

258 「正音」の清濁 名義抄の性格の一面

高松政雄

国語国文 46・11 昭52 44・11

IV アクセント

I 国語音

(i) 総説

- 259 本朝四声考
- 260 日本四声考
- 261 日本四声古義
- 262 国語アクセントの史的研究
- 263 語調変化の法則の探求
- 264 アクセント推移の要因について

(ii) 資料研究

- 265 金刀比羅本伊勢物語の声点について
- 266 千葉本大鏡の声点と訓をめぐって
- 267 千葉本大鏡における漢字の振りがな及び声点について
- 268 『水言抄』に載せられた声点をめぐって

(iii) 各論

- 269 現代語方言の比較から見た平安朝アクセント

2 漢字音

- 270 観智院本『世俗訪文』の声点
- 271 呉音説資料の検討―声点加点法の相違と学統との関係について
- 272 呉音系字音の祖系音について

佐藤 寛	国文論叢	明 36
大西雅雄	コトバ5、3	昭 10
金田一春彦	国語アクセント論叢	昭 26
金田一春彦	国語アクセントの語	昭 18
金田一春彦	東洋語研究 3	昭 22
秋永一枝	国語学 31	昭 32
森 孝宏	国語院雜誌 78、11	昭 52、11
高橋宏幸	史料と研究 6	昭 51、10
小久保崇明	語文(日大) 44	昭 53、3
馬淵和夫	説話 6	昭 53、5
金田一春彦	方言 7、6	昭 12
高松政雄	岐阜大学国語国文学 13	昭 53、3
沼本克明	鎌倉時代語研究 1	昭 53、3
沼本克明	国語国文学 47、7	昭 53、7

- 273 法華經吳音詁に於る聲声について
- 274 吳音声調の国語化と訓点資料——儀軌類を中心にして——
- 275 古代漢音における四声の輕重について
- 276 漢音の声明とその声調

沼本克明
 崎村弘文
 朝山信殊
 類 惟勤
 信州大学人文科学科紀
 8
 語文研究 44・45
 国語国文 11・11
 言語研究 17・18 合併号
 昭53・6
 昭16・11

四 語 彙

I 総 説

1 全 般

- 277 基本語彙に関する二三の研究——日本の古典文学作品に於ける
- 278 平安朝和文作品の語彙研究(上)(下)
- 279 奈良平安時代和文脈系文学の基本語彙に関する試み
- 280 語彙の変遷
- 282 平安朝服飾百科辞典
- 281 生活の変化と語彙の消長

大野 晋
 山本トミ
 嘉藤久美子
 前田富稜
 あかぬ会
 前田富稜
 国語学 24
 学習院大学国語国文学
 会誌 13
 東海大学国語国文学
 園 4
 岩波講座 日本語 9 語彙
 講と意味社
 新・日本語講座 4
 昭31・3
 昭45
 昭53
 昭52・6
 昭50・7
 昭50・11

2 作品研究

- 283 色葉字類抄の一語彙群

相取一成
 国語学 33
 昭33・6

284	古辞書における意義分類の基準	藥島 裕	品詞別日本文法講座 10	昭 48	6
285	実朝語彙考——実朝の万葉新訓の可能性	及川 敬一	釧路工業高専紀要 4	昭 45	6
286	王業・風雅集における自然美の様体（統）特定の用語にみる特次田香澄	山梨県立女子短大紀要 昭 52	10	昭 44	2
287	山家集に於ける結語の研究——結語分析から見た西行の作歌態	酒井 鑑二	山梨県立女子短大紀要 昭 49	昭 44	2
288	新猿蓑記の語彙——付・語彙索引	丸山 嘉信	徳島大学教養部紀要・紀要	昭 46	3
289	意味論より観たる中世和歌の用語理論	田植 研究会	徳島大学社会科学部紀要	昭 47	6
290	田植歌研究用語解説	五井 幸助	三井物産株式会	昭 42	1
291	「問はず語り」服飾考	布施 秀治	帝國学大学院紀事 2-1-2		
292	古文書記録に見えたる語辞の一般考察	西田 直敏	国語国文研究（北大）	昭 53	7
293	平家物語語彙論序説	田島 敏堂	名古屋大学国語国文学部	昭 41	11
294	正法眼蔵の語彙（1）	田島 敏堂	余松 401	昭 52	1
295	正法眼蔵と言葉（5）	井之口 有一	聖母学院短大児童教育	昭 52	12
296	「般若心経」の用語用字等について（1）				

3. 漢語

297	国語の漢語（4） 訓混用語（上）	種文化にまつる漢語へ上・中・下（統） 音	鈴木 修次	みすず 19	昭 52	12
298	陸政録倉庫時代の漢語 六文賦における特有語彙と共有語彙の観点から	佐々木 峻 牧野 泰子	鎌倉時代語研究 1	昭 53	3	
299	漢語の類義語 奇怪・奇特・奇異・不思議	浅野 政彦	同社社国文学 12	昭 52	3	

300	色葉字類抄疊字門の漢語とその用字——その一字音語について(山田俊雄)	山田俊雄	成城文芸 34	昭 38	10
301	色葉字類抄疊字門の漢語とその用字——その二訓読の語——	山田俊雄	成城文芸 39	昭 40	5
302	建武本論語の漢語 上	柏谷嘉弘	熊本大学法文学部論叢		
303	建武本論語の漢語 中・下	柏谷嘉弘			
304	醍醐寺本遊仙窟の漢語	柏谷嘉弘	大阪大学医学部短期論叢	昭 48	49
305	保元物語の漢語	柏谷嘉弘	大阪大学医学部短期論叢	昭 41	2
306	正法眼蔵のサ変動詞 その用例(9)漢字二字ノ	田島毓堂	大阪大学医学部短期論叢	昭 53	
307	正法眼蔵のサ変動詞 その用例(11)漢字二字ノ(木)	田島毓堂	大阪大学医学部短期論叢	昭 52	10
308	正法眼蔵のサ変動詞 その用例(12)漢字二字マツワ	田島毓堂	大阪大学医学部短期論叢	昭 53	3

4 訓読語

309	訓読語の性格	遠藤嘉基	国語国文 17	昭 23	2
310	訓高の語彙——高野山光明院蔵蘇悉地羯羅經承保元年点——	曾田文雄	訓点語と訓点資料 8	昭 32	9
311	岩崎文庫本「推古紀」の皇極紀の初度訓読彙表	内田賢徳	帝塚山学院大学日本文学研究所 9	昭 53	2
312	訓読語と和文脈の語	村上久子	大谷女子大学国文学	昭 52	3
313	「古今・後拾遺」の4載・新古今の四歌集の序にみられる訓点	木田絃子	岡国文論稿 1	昭 48	3

II 各説

1 語史・語詞

314	身体語彙の変化——「かうべし」「かしら」「あたまし」「なづき」など	宮地敦子	国語学 94	昭 48	9
315	身体語彙史序説	前田富祺	佐藤喜代治教授退官記念 国語学論集	昭 51	5
316	平安時代の語彙——手から肩までの呼び方をめぐって——	前田富祺	国語学 112	昭 53	3
317	指のよび方について	前田富祺	文芸研究 56	昭 53	5
318	身体に関する語彙の変遷——「かばねし」「からし」「なきがらし」など	宮地敦子	国語と国文学 55	昭 53	5
319	言葉から見た日本人の食生活史	前田富祺	言語生活 286	昭 50	7
320	衣の生活語彙史	前田富祺	言語生活 314	昭 52	11
321	前における「衣服」の意味について	広島まさる	鶴見女子大学紀要 4	昭 42	2
322	平家物語に見える武装の描写	鈴木敬三	国学院雑論 76	昭 50	11
323	軍記物語における武装描写の語彙——衣生活語彙史序説として	前田富祺	国語と国文学 55	昭 53	5
324	平安時代の助数詞に関する一考察(一)	峰岸 明	東洋大学紀要 文学部	昭 41	12
325	「ほうなきもの」について(一) (梁塵秘抄)	若林芳樹	国文学 21	昭 33	4
326	「数」の字考	山口明禮	国文白合 1	昭 45	3
327	「みだし野」小考	田尻嘉信	国文白合 1	昭 50	3
328	問答語説	福島邦道	実践国文学 10	昭 51	10
329	「功德」と「う語」について	榎部 建	大谷学報 56	昭 52	2
330	「睡」考	今西浩子	昭和学院短大紀要 13	昭 52	3
331	「はぬし」「いはほし」「いはやし」	曾田文雄	国語国文 46	昭 52	4

- 332 勅撰集における「ながめし」その基礎的資料
- 333 建礼門院右京大夫集における「あはれ」
- 334 八代集と「けしき」
- 335 「けしき」と後拾遺集——時に、自然に関する「けしき」について——
- 336 「ほのぼの」の考——新古今の情景構成の論のために——
- 337 西行の「風」の歌について——西行和歌の一断面
- 338 和歌の世界におけるほととぎすの鳴き声について
- 339 深産種抄の「くれくれ」の考——「くれくれ」といふ語歌謡の文芸性に関する若干の考察
- 340 才丈記「不請」の解
- 341 徒然草第百十四段の一語句について
- 342 丹波国田能庄の百姓とその「縁友」について——中世前期村落における小百姓の存続形態——
- 343 金石文などにおける「縁友」について
- 344 「ヒト」と「モノ」の考——「増鏡」の場合
- 345 記録体における「夕方」の語彙の体系——後二条師通記の場合——
- 346 「義経記」の人物像の倫理意識について——時に「けなげ」と「なさけ」
- 347 「義経記」の人物像（承前）——「なさけ」の倫理意識について——小松茂人
- 348 物のつき給へるか——宇治拾遺物語の語句二、三について——白石大二
- 349 今昔物語集の「端正」と「美麗」——美的語彙をめぐって——小峯和明
- 350 親鸞における慈悲——法然との対比を巡して——原 哲雄

内田敬子	立教大学 日本文学 29	昭 47	12
雑賀美枝	大正大学 文学部 清心女子	昭 47	3
根来 司	中国語と国文学の研究 35	昭 50	3
西端 幸雄	中国語の研究 323	昭 53	3
石川常彦	国語国文 43	昭 49	7
白田昭吾	静岡英和女学院 短期大 昭 52	昭 52	
吉田リヅ子	高知女子大 国文 14	昭 53	7
高橋六二	日本歌謡研究 12	昭 47	12
貴志正造	国学院雑誌 78	昭 52	2
浅井峯治	中京大学 文学部 紀要 6	昭 46	9
河音能平	人文研究 26	昭 46	11
峰岸純夫	鎌倉遺文 月報 10	昭 51	4
我妻建治	成城大 短大 学部 紀要 8	昭 52	3
遠藤好英	国語と国文学 55	昭 53	5
小松茂人	宮城学院 女子大学 研究 昭 41	昭 41	7
小松茂人	論文集 28	昭 42	1
白石大二	宮城学院 女子大学 研究 昭 42	昭 42	1
小峯和明	日本文学 誌要 12	昭 40	6
原 哲雄	日本文学 26	昭 52	9
	語文論叢 5 (千葉大)	昭 52	8

- 351 古今集の戀詞と新古今集の戀詞・江湖山博士の説を中心として 西岡 欣一 愛媛国文研究 16 昭 41・12
- 352 八代集掛詞一覽——1—— 神作 光一 王朝文学 18 昭 48・4

2 副詞

- 353 あながちに 浜田 敦 人文研究 (大阪市大) 昭 30・6
- 354 「タトヒ」(假使・假令)についての一考察 久山 善正 訓点語と訓点資料 11 昭 34・3
- 355 隠された意味の発見——「ヤガマシ」の語源と解釈—— 吉田 金彦 訓点語と訓点資料 57 昭 51・3
- 356 「いっしか」ヒ「いっしか」とし 穂田 定禰 大谷女子大学紀要 11・昭 51・7
- 357 「すこしも」の意味・用法について 若山 明子 武庫川国文 10 昭 51・11
- 359 「すべま」の消長 今昔物語集を中心に 山口 康子 長崎大教育学部人文科 昭 52・3
- 358 関吟集「とても」考——「とても」の解説をめぐって 安達 雅夫 中学研究報告 26 昭 52・11
- 360 イハユル考——正法眼蔵の語彙から 田島 鏡堂 熊谷武至教授古稀記念 昭 52・10

3 形容詞

- 361 疑いと治定——「けらし」を中心として—— 根来 司 中国語と国文学研究 34・9 昭 昭 405132・1
- 362 ウルゼシ・オボクヲ考——宇治拾遺物語を中心として—— 永田 敏子 女子大國文の研究 39 昭 昭 40511029

4. 動詞

- | | | | | |
|-----|--|-------|--------------|--------|
| 363 | 続「すごし」考——主として古字書をめぐって | 梅野きみ子 | 平安文学研究47 | 昭46・11 |
| 364 | 「類聚冠義抄」の形容詞 | 中山緑朗 | 学苑（昭和女子大）457 | 昭53・1 |
| 365 | 続「なまめく」「なまめかし」考——八代集を中心にして | 北村英子 | 平安文学研究51 | 昭48・12 |
| 366 | 「きよし」について（その5）
——八代集における「きよし」の約美の考察 | 谷口典子 | 平安文学研究51 | 昭48・12 |
| 367 | 対義語とその周辺
——「深し」と「浅し」、「高し」と「深し」—— | 宮地敦子 | 国語国文46・4 | 昭52・4 |
| 368 | 「になし」考 | 河原 寛 | 国語国文46・10 | 昭52・10 |
| 369 | 「やさし」の語詠に関する一考察 | 進藤義治 | 南山国文論集2 | 昭52・11 |
| 370 | 中世における動詞の実態 | 村上雅孝 | 国語学研究9 | 昭44・10 |
| 371 | 語詠「はむ」「くう」「たべる」 | 宮地敦子 | 言語生活 | 昭50・7 |
| 372 | 「愛す」考 | 宮地敦子 | 国語国文35・6 | 昭41・6 |
| 373 | 「イヨタツ」と「ヨダツ」について | 村上雅孝 | 国語学研究7 | 昭42・8 |
| 374 | 「ヨハル」と「ハツ」 | 大坪併治 | 国大国文論稿4 | 昭51・5 |
| 375 | 「念ず」の多義性について | 岩下裕一 | 国学院雑誌78・11 | 昭52・11 |
| 376 | 「あがふ」「あがなふ」「あらがふ」について
——宇治拾遺物語難語考—— | 小林忠雄 | 解釈 | 昭35・1 |
| 377 | 「平家物語」の動詞の意味分野——語彙史研究のために | 佐々木英樹 | 国語研究（国学院）41 | 昭53・3 |

5 接 辞

378 『今昔物語集』の接尾辞「達」

有賀嘉寿子

説話5

昭49、6

379 御一用法と意味

大岩正伸

国語学52

昭38、3

380 『正法眼蔵』に於ける「動詞+取」の形の口語語彙について 藤原輝三

愛知学院大学論叢16

昭43、7

五 語 法

I 総 説

381 中古の文法

築島 裕

日本文法講座三

昭32、11

382 中世語における格意識の一面

山口明穂

松本明教授
慶應記念
中世語と国語学

昭52

II 資料研究

383 今昔物語集語法考

岩井良雄

笠間書院

昭53

384 正法眼蔵の一語法

田島威堂

仏教文学第I期5

昭42

Ⅲ 各説

1 訓読語法

- 385 漢文訓読史研究の一試論
 - 386 訓読語法に基く訓点資料の分類
 - 387 漢文訓読体の語法
 - 388 大江家の訓法の特徴
 - 389 小大君の訓法及び鎌倉時代の今様界
 - 390 新注家点の展開
 - 391 山崎嘉点の性格
 - 392 中川成身院本の点法について
 - 393 「文選讀」考
 - 394 名義抄・文選読についての覚之書
 - 395 訓点語の倒置法
 - 396 漢文訓読史上の一問題(二)——「トト」より「モ」へ——
 - 397 都・曾訓義考
 - 398 漢文訓読史上の一問題(六)——「曾」字の訓について
 - 399 平安時代の漢籍訓読語の「性格」——再読字を中心として——
 - 400 「唯」訓義考——訓点資料を中心に——
 - 401 ハモシ、Vについて
 - 402 訓読語法史における疑問副詞「焉」の訓について
 - 403 訓点語における「如し」の用法
-
- | | | | |
|-------|-------|--------------|--------|
| 川林芳規 | 川林芳規 | 国語学55 | 昭38、12 |
| 小林芳規 | 小林芳規 | 訓点語と訓点資料33 | 昭41、8 |
| 高野繁男 | 高野繁男 | 国文学論集7 | |
| 小林芳規 | 小林芳規 | 国語と国文学41、10 | 昭39、10 |
| 佐々木信綱 | 佐々木信綱 | 心のはな32、2 | |
| 村上雅孝 | 村上雅孝 | 共立女子大文学部紀要51 | 昭51、6 |
| 村上雅孝 | 村上雅孝 | 文芸研究82 | 昭51、6 |
| 築島 裕 | 築島 裕 | 征養善代治教授選官記念 | 昭51、6 |
| 築島 裕 | 築島 裕 | 国語と国文学28、11 | 昭26、11 |
| 今西 浩 | 今西 浩 | 昭和学院国語国文12 | 昭51 |
| 大坪併治 | 大坪併治 | 訓点語と訓点資料54 | 昭49、5 |
| 門前正彦 | 門前正彦 | 訓点語と訓点資料11 | 昭34、3 |
| 大坪併治 | 大坪併治 | 国語国文 | 昭10、7 |
| 門前正彦 | 門前正彦 | 訓点語と訓点資料28 | 昭39、4 |
| 村上雅孝 | 村上雅孝 | 国語学64 | 昭41、3 |
| 大坪併治 | 大坪併治 | 国語国文39、5 | 昭45、5 |
| 広津文雄 | 広津文雄 | 訓点語と訓点資料54 | 昭49、5 |
| 三保忠夫 | 三保忠夫 | 大坪併治教授選官記念論集 | 昭51、5 |
| 大坪併治 | 大坪併治 | 訓点語と訓点資料28 | 昭39、4 |

404	ゴトミといふ語の形態と位相——今昔物語集の用例二三	春日和男	文芸と思想 18	昭 34	11
405	カクノゴトミといふ熟語の訓読性 ——訓点語と今昔物語集の用例二三	春日和男	語文研究 10	昭 35	5
406	漢文訓読史上の一問題 (五)——「欲」字の訓について——	門前正彦	訓点資料と訓点語 25	昭 38	3
407	博士詠の源流——トキンバ(則)を一例として——	小林芳規	国文学言語と文芸 4	昭 34	3
408	反字の訓読	小林芳規	国文学言語と文芸 5	昭 34	5
409	漢文訓読史上の一問題 (四)——「并」字の訓について——	門前正彦	訓点語と訓点資料 14	昭 35	10
410	吾妻鏡に多く用いられる「云々(へうんぬん)」の訓と用法	青木孝	青山学院女子短期大学 昭 45		
411	漢文訓読史から見た打消の訓法	小林芳規	紀要 24 文学論 19	昭 36	3
412	漢文訓読史上の一問題——打消助動詞の連体形について	門前正彦	訓点語と訓点資料 8	昭 32	9
413	漢文訓読史上の一問題 (三)——助動詞「ガリ」について——	門前正彦	訓点語と訓点資料 13	昭 35	2
414	訓点語に用いられた雅量の助動詞	宇都宮睦男	訓点語と訓点資料 43	昭 46	3
415	「うくのみ」「まくのみ」源流考	小林芳規	文学論 8	昭 32	10
416	訓点語法更における副助詞「らし」	小林芳規	国語と国文学 32	昭 30	11
417	「於」の訓の変遷	小林芳規	東洋大学紀要 12	昭 33	2
418	漢文訓読と終助詞「かし」の問題	春日和男	語文研究 31	昭 46	10
419	陳述の助詞「之」の訓法	小林芳規	文学論 23	昭 37	10
420	吾妻鏡に見える不説強勢の「之(ハシ)」字	青木孝	私学研修 45	昭 44	11
421	観智院本「世俗語文」覚え書きの仮名遣いについて	西崎亨	芸文 7	昭 51	1

2 体言止・係り結び

- 422 院政期の連体形終止
- 423 係り結びの花樞 中世歌学から山田孝雄まで
- 424 係結の表現価値——物語文章論より見たる——
- 425 建礼門院右京大夫集の係り結び

山内洋一郎

国文学 21

昭 34, 7

佐藤 繪

山形女子短期大学紀要 昭 52, 3

宮坂和江

国語と国文学 29, 2 昭 27, 2

山口雄輔

浅野信博士古稀記念国語学論叢 昭 52, 10

3 複合語

- 426 こそあれ
- 427 ずは・なくは考(一) 源氏物語 二万葉集記・紀 三八代集
- 428 香妻鏡の(上) 軍記物における用法との関連
- 429 今昔物語集の接続詞——而ル間

江口正弘

国語学 55

昭 38, 12

宮地幸二

帝京大学文学部紀要 10 昭 53, 10

高橋一美

二松学舎大学人文論叢 昭 49, 10

平方幸夫

柴の(い)ほり 11

昭 51, 2

4 代名詞

5 活用

430 生々の活用について

板井光昭

国語学 110

昭 52, 8

- 431 「平氏たはれ候ぬしの」たはるし及びったうるし
- 432 田植草紙の語法二三——まじする・まんする・など
- 433 「陸りすまむし」吹きすまむしについて

餅田 広夫 国語研究（国学院）40 昭52・3
 山口 明穂 田原研究7 昭40・1
 山口 明穂 国語研究室1 平世国語研究 昭51・38・1
 語における文語の研究 昭51・8・1

6 動詞

- 435 動詞「漬つし」について
- 436 中世の「申せし」という語法をめぐって
- 437 語りの姿勢「をりし」の消長をめぐって
- 438 法華修法百座開書抄における中世語の整理
付「トイハレ」と「ハムベリ」
- 439 正法眼蔵の語法——漢語ヲ変動詞について——

山内 洋一郎 国語学59 昭39・12
 柏原 司郎 国語研究（国学院大）昭52・3
 阪倉 篤義 文学45・5 昭52・5
 福地 昭助 王朝文学8 昭38・5
 田島 颯堂 名古屋大学国語国文学 昭45・7

7 副詞・形容詞

8 助動詞

- 440 助動詞「らし」とその周辺の語——中世文語での用法
- 441 院政鎌倉時代における否定推量・否定意志の表現
ジ・マジ・マジ・ベカラスの周辺

山口 明穂 国語と国文学45・9 昭43・19
 小林 賢次 杏川大 昭52・108
 寺川 大 昭43・108

42 説話の叙述形式として見た助動詞キ・ナリ 訓点資料を中心に大坪併治 国語学刊 昭52・12
 43 完了の助動詞夕リ・リの上接語(調査報告) 近藤洋子 熊谷武至教授古稀記念 昭52・10
 正法眼蔵随聞記を中心に

9 助詞

44 助動詞ドンについて 林和比子 国語と国文学 昭12・9
 45 起点を示す「なり」と「からし」と 小杉商一 国学院雑誌 72・11 昭46・11
 46 定家卿と拾遺集——格助詞「を」と係助詞「と」と—— 塚原欽雄 谷山茂教授退職記念 昭47・12
 47 主務助詞「が」の発生——無住法師の作品を中心に—— 斎藤由美子 本位田重美集 昭52・3
 48 「とがや」小考 大鏡・今鏡の使用状況をめぐって 大木正義 念論文集 昭52・4
 49 「とぞ」小考 説話における使用を中心に 大木正義 解釈 23・8 昭52・8
 50 今昔物語集集中の副助詞「ばかり」に就いて 関谷 浩 野州国文学 20 昭52・12

六 文章・文体・表現法

I 総説

1 文章

41 文章史の問題点 江湖山恒明 国語と国文学 37・10 昭35・10

2 文 体

- 452 日本語の文体
- 453 漢文体
- 454 「今昔」考——説話の時制と文体——
- 455 説話文体の効用——「今昔考」の終りに——
- 456 説話構文について
- 457 文体的価値の再構——「板東声」を例として

築島 裕	岩波講座日本語10 文体 昭52・9
大曾根章介	岩波講座日本語10 文体 昭52・9
春日和男	国語国文35・7 昭41・7
春日和男	文学研究66 昭44・3
春日和男	文学研究72 昭50・9
西田直敏	松村明教授 還暦記念 国語学と国語史 昭52

3 表 現 法

- 458 疑問表現から確定表現へ——文語史研究の可能性
- 459 散文表現の機構
- 460 平安後期・鎌倉時代物語の多様性——起筆法・冒頭文の展開について(2)
- 461 日本文法発想論序説(2)——平安以降「他者」主体表現し史の素描
- 462 「に」を介する同一動詞 反復形式の表現価値

根来 司	藤女子大学文学部紀要 昭39・7
杉山康彦	三一書房 昭49・10
大槻 修	甲南国文24 昭52・3
浅野 信	国学院雑誌78・5 昭52・5
山口康子	春日和男教授 還暦記念 語文論叢 昭53

4 敬語法

463	穂田定爾著「中古世の敬語の研究」	桜井光昭	国語学 11	昭52・11
464	「侍り」と「候ふ」の消長について	山下正治	立正大学文学部論叢	昭44・3
465	「侍り」の語形鶏助	東辻保和	解説 16・5	昭45・5

II 資料研究

1 文章・文体

466	歌論における文体論の問題「答」に就いて	尾上新太郎	仏教大学研究紀要 61	昭52・3
467	古今・新古今の文体的研究	村井順	淑徳国文 18	昭52・1
468	あさちが露の文章	大槻修	平安文学研究 47	昭46・11
469	方丈記、冒頭文の解読「し」が中心に	久山善正	国語国文 46・5	昭52・5
470	「昭衡往来」の撰者・書名・内容・文体について	服部嘉香	国文学研究(極光女学 院大) 5	昭44・11
471	和漢混淆文における文学性について ——「平家物語」と「保元物語」——	原栄一	語文論叢	昭53
472	三宝絵詞東大寺切の文体について—— ——観智院本の文体と比較して増成富久子		松村明教授 還暦記念 国語学と国語史	昭52

2 表現法

473 「新古今和歌集」の研究 表現としての「いろは」の分析を通して山田康代 金城国文 53 昭52・2
 474 新古今36番歌の表現分析 特に下二句の解釈を中心に 藤田加代 表現研究 26 昭52・9
 475 護阿弥陀仏偈和讃表現考 中川浩文 仏教文学第1期 10 昭46
 476 愚管抄の表現主義 松本彦次郎 史学雑誌 昭5・11
 477 中世国家神話の形成——「神皇正統記」の表現構造のなかで 桜井好郎 文学 45・11 昭52・11
 478 中世文学の表現特性——太平記の構成について—— 押見虎三二 新大國語 3 昭52・3
 479 真名木曾我物語の故事——表現形式についての考察—— 稲葉二柄 中世文学研究 3 昭52・7
 480 單記における受身表現と使役表現と 山内洋一郎 奈良教育大國文研究と 昭52・8
 481 今昔物語集の表現(1) 題の示すもの 田沢早苗 教育 23・9 昭52・9

3 敬語法

482 「四条宮下野集」における敬語 森野宗明 昭42・4
 483 「護政典侍日記」の敬語——院政期の敬語について—— 田中しげ子 米沢國語國文 4 昭52・9
 484 保元・平治物語における「——奉る」——「参らす」——「申す」川岸敬子 國語学研究与資料 3 昭53・6
 485 「発心集」の「聞こゆ」の諸相 下坂勝洋 説話 6 昭53・5

- 493 法華經單字仮名字音表
- 494 金光明最勝王經音義 解説・索引
- 495 天理四韻字集(詩苑韻集)和訓一覽
- 496 古語拾遺用語索引並に対校表
- 497 世尊 本字鏡漢字索引(二)(三)
- 498 金沢文庫蔵「俱舍論音義」国語索引

2 悉曇・訓点資料

- 499 遊仙窟並索引
- 500 知恩院蔵大唐三藏玄奘法師表啓古点 漢字索引・語彙索引
- 501 觀智院本乙本唐大和上東征伝倭訓索引
- 502 神田本白氏文集天永四年点總索引

3 和歌・歌謠

- 503 「夫木和歌集」作者別索引(1) (3)
- 504 後葉集・続群書類完成会本
——続群書類完成会本
後葉集の初句索引
- 505 金穂和歌集各句索引
- 506 田植草紙 校訂本文ならびに總索引
- 507 田植草紙總索引

吉田金彦	訓点語と訓点資料8	昭32	9
小松英雄	大東急記念文庫	昭34	
吉田金彦	訓点語と訓点資料20	昭37	2
西崎亨	訓点語と訓点資料56	昭50	8
島田友啓	古辞書索引叢刊	昭52	352
西崎亨	訓点語と訓点資料60	昭52	352
		昭53	352
		昭55	36

三丁尻浩	私家版	昭11	
築島裕	訓点語と訓点資料4	昭30	5
歳中進	水門7	昭40	8
宇都宮睦男	訓点語と訓点資料61	昭53	10

淡口博章	甲南大学文学部論集	昭40	140
神作光一	王朝文学13	昭41	424
	私家版	昭42	112111
宮川康雄	田眼研究会	昭42	
西村真一郎	田植草紙の研究	昭42	
山内洋一郎	三珠井書店	昭47	6
山内洋一郎		昭47	6

527 葉月物語絵巻詞書本文並びに総索引

田島疏堂

東海学園国語園文14

昭53・10

5 隨筆

528 方丈記語句総索引

草部了円

方丈記諸本の本文校訂 昭41

6 紀行

529 東関紀行 本文及び総索引

江口正弘能本女子大
子大國語学研究室 空閑書院

昭52・10

7 記録・史書・評論

530 五十音引 僧歴綜覧 推古二年〜元暦二年

平林一盛得

空閑書院

昭51・7

531 醍醐寺蔵本「傳法灌頂師資相承血脈」僧名索引

小池一裕

醍醐寺文化財研究所 昭53・11

532 高野山本和泉往来和訓索引

西崎亨

醍醐寺文化財研究所 昭45・10

533 西立回舎 百舌往来の字音 漢字索引および字音索引(1)(2)

北 恭昭

無根大学教育学部紀要 昭47・48

535 寛永三年版東鑑漢字索引 卷三

西崎亨

空閑書院 昭53・12

534 楊守敬旧蔵本(付)真福寺本将門記訓詁語彙稿

立岸 康明

立岸大学 昭52・11

536 却癡忘記総索引

西崎亨

訓点語と訓点資料 昭53・3

537 光言可義狄聴集記総索引

宮島裕雅

高山大学 昭53・3

538 増鏡総索引

快林芳規

高山大学 昭53・3

539 望塵秘抄口伝集語彙索引

古川久平

東京女子大学 昭33・3

540 新猿樂記の語彙——付語彙索引

酒井憲二

山梨県立女子短期大学
紀要8

8 軍記物語

541 軍語摘要と本文と主要語句索引

近藤政美

国語学論集1
笠間書院

昭53・3

9 説話

542 類稿 日本靈異記 和訓注記
漢字索引

川泉 道

訓点語と訓点資料 22 昭37・6

543 南无阿弥陀仏作善集 仮名索引稿 漢字索引稿

東辻係和

訓点語と訓点資料 38 昭43・9

544 世俗諺文和訓索引

西崎 亨

訓点語と訓点資料 48 昭47・6

545 今昔物語文筋索引卷9

馬淵和夫 監修

笠間書院 昭50・8

546 今昔物語文筋索引卷15

馬淵和夫 監修

笠間書院 昭52・5

547 今昔物語文筋索引卷28

馬淵和夫 監修

笠間書院 昭52・3

548 法華百座聞書抄漢字索引 (五)

有賀嘉寿子 監修

新潟大学国文学会誌 21 昭52・12

549 最明寺本寶物集総索引稿 (一)

菅原範天

鎌倉時代語研究 1 昭53・3

10 法語

550 前田家藏 冥報記 傍訓索引
長治三年鈔本

小池清治

五藤了 昭46

551 天理圖書館蔵日本往生極楽記 用語索引

本浜文雄

天理大学学報 26 昭46・12

552 足利本仮名書法華経索引篇

中田祝夫 編

勁誠社 昭52・3

553 淨土三部經一字即一切字句索引
 554 法華三部經章句索引
 555 法華經一字索引
 556 心空版倭点法華經訓点索引

藤野立然 龍谷大學論集 375
 兜木正亨 佼成出版社
 東洋哲學研究所 東洋哲學研究所
 吉見孝夫 勉誠社

昭 38 3
 昭 52 5
 昭 52 10
 昭 53

(二) 著者索引

相坂一成	283	浅井崇治	341
相原可郎	261	浅野建二	284
青木 孝	352 353 355 356 357 358	浅野 信	461
青木 伶子	410 420 353 355 357 358 291	浅野敏彦	299
		浅山信弥	275
		足利衍述	337
縣 栄一	291 318	阿食かをる	292
あか附会		安達雅夫	358
赤羽 淑	355 356 357	安達隆一	355
赤羽 学	205	温美かをる	255 255
秋永一枝	367 367 367		268 268 268
秋葉安太郎	366 150 264	阿部隆一	168
秋山 彦	337	絞材 宏	188
朝倉 尚	258	有賀嘉寿子	378
		有川武彦	299
		有坂秀世	257 257
		安藤直太郎	263 263 273
		石垣正蔵	256
		石川常彦	286 286 336
		石坂正蔵	250 255 295
		石塚晴通	140 141 142
		石野つる子	240
		井浦美幸	255
		寛五百里	258
		五十嵐力	294
		井 脩正司	336
		池 久み	278
		池上洵一	303
		池上禎造	299 264 196
		池田利夫	330
		池田併治	↓大坪併治
		石井庄司	299 304
		石井文夫	308 519
		石垣謙二	284 291 291
		糸井通浩	512
		井手 至	280
		出雲朝子	292
		和泉久子	289
		市村和子	281
		市古貞次	283 285 301
		市川靖子	254
		市川まち子	254
		一色美貴子	520
		伊丹昇	239
		石山寺文化財総合調査団	187
		石井田正	296

糸賀きみ江

304

岩淵悦太郎

二六三三七四

伊藤博之

二四四 二九九 三〇三

岩淵 匡

二七九 二九四

9

稲垣瑞穂

二八七 二九〇 二九〇

江口正弘

二七三 三三七 426 529

三〇二

稲田伊之助

二七八

上野利昭

238

稲田利徳

二九五

植垣節也

二四四 二四四 二四四

稲葉二柄

479

上田恭輔

二七六

犬井善弄

280

内田敬子

332

犬飼守薫

22

内田賢徳

311

井上 章

286

白田昭吾

337 511

井上興本

267 269

打聞集を説む会

二四七

井上親雄

二八八 二九〇 128

宇都宮睦男

二六三 三〇八

井上博嗣

二八〇 二九二

内田月杖

96 101 102 414 502

今泉忠義

二九五

内海弘蔵

三〇一

今西浩子

二三八 330 394

宇野つる子

47

今村幸子

二九二

梅原恭則

二九一

伊牟田経久

二八六

榎野きみ子

363

岩井良雄

二八三 375 383

浦野洋美

二九七

岩清水尚

二四三

瓜生寧勝

二七七 二七七 二七七

岩竹 亨

二七八 三三三

瓜生寧勝

二七八 二七八

四一六

及川敬一

三三三 285

及川大溪

三九

王朝文学研究会

二四二 二四三

大岩正伸

二四七

379

大内初夫

451

二四二

大木正義

336

448 449

大久保強

336

三五五 二六四 155

大隅和雄

336

三〇三

大曾根章介

220

453

太田次男

337

三三八 三三八

太田為三郎

274

89 162

木田紘子

274

313

大谷大國文学研究室

293

三三七

大塚光信

293

二九五 二九五

大槻 修

301

460 468

大槻文彦

301

二九一

大坪併治

208 345

二九一

遠藤嘉基

208 345

二九一

遠藤好英

293

二九三 二九三 二九八

遠藤嘉基

293

二九三 二九三 二九八

大友信一

51 52 53 54 309

二四〇 二四〇 二四〇

二四一

工

江川たつ子

二七三

江口正弘

二七三 三三七 426 529

江湖山恒明

二八三 二八三

愛媛大学文学部国語学研究会

三〇五 451

榎 克朗

336

胡子福海

220

遠藤和夫

二五九 二七七 三〇四

遠藤和基

二六二 二六二 二七〇

遠藤光正

二七四

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

遠藤好英

二七六 二七六 二九三

才

才

大西雅雄	260	奥田 勲	二五二	門前正彦	122 131 346 398 406 409
大野雅熙	三〇〇	奥村三雄	二四〇 二五九 二六四		
大野 晋	二六六 二五五 二五五		二六四 二六四 二六六 二六七	門屋和雄	412 413
大野 透	二七六 二九三 三三八		二六六 二六八 二六八 二六八	加納協三郎	292
大原孝道	230 277		二六六 二七二 二七一 二七一	兜木正孝	554
大矢 遼	二〇九		二七二 二七二 二七三 二七三	鍛方健一郎	二六二
岡井慎吾	二五〇 二五〇		二七三 二七三 二七三 二七三	鎌田 正	81
岡崎正継	二九二 二九六	尾崎知光	二四七	鎌田 正	二九〇 三〇九 431
小笠原一	二五二 二五六 二五四	小沢サト子	二四三 二七七	鎌田 正	二九〇 三〇九 431
岡田尚子	二六九	小沢遼子	二七七	神尾式春	三五三 三五五
岡田 喬	三二一	押見虎三二	478	神作光一	二五三 352 504 518
岡田希雄	三三七 三三七 三三八	尾上新太郎	466	亀井孝	二四五 二四九 三五九
	二三八 二九九 二九九 二九九	柏口信夫	二二六		
	二二九 二四〇 二四一 二四一		三〇四	滝田定樹	二八九 二九五 356
	二四二 二四二 二四八 30 143	柿本吾郎	二五八	亀田次郎	二四一
岡部政裕	二九九	梶原湜太郎	二九〇 二九二	河音能平	342
岡村和江	二八四 二九四 二九四		二九二	川上 恭	二六九
	二九四 二九七 三〇一 三〇九	柏原司郎	436	川岸敬子	三〇九 三三〇 484
	三〇九 三〇九 491	梶原正昭	二九四	川口久雄	二七九
岡本勲	二五八 二六四 二六四 254 257	春日和男	二四七 二四七 二四七	河崎正之	三〇五
小川寿一	177		二五五 二五五 二七九 二八八	川瀬一馬	二二七 二二七 二四〇
		門前真一	二八六		26 46

力

河原 寛 三三七 368 木藤才藏 元七七 久保田淳 二八四 三五四 三九九 国語研究会 二八六 二八九

河村正夫 31 木之下正雄 三五六 三〇六 戴中 進 三六 小久保崇明 二八六 二八九

神田喜一郎 二七五 99 木下正俊 三三四 三三五 戴野嗣久 二六六 二八六 二八六 小島幸枝 192

神田秀夫 90 156 木村 運 二八六 二八六 二八六 小杉商一 445

木枝増一 三三〇 久曾神昇 171 517 黒沢弘光 256 国立国語研究所古代語研究 44

菊沢季生 二四九 二五七 二八三 京都大学文学部国語学圃 三二四 三三五 桑原三二 三〇八 後藤丹治 二四四 二四八 三〇〇

二八四 二八七 二八七 二八七 文学研究室 三二四 三三五 桑原博史 二七八 小林岩彦 三〇四

二八七 二八七 二八八 二八九 桐原徳重 二九九 慶野正次 二七五 二七四 二八一 小林賢次 二九〇 三〇七 441

二八九 金田一春彦 二三八 二四六 小杯忠雄 376 小林千草 二九五

菊池良一 三三二 二五八 二五八 二五九 二六五 小杯智昭 二七三

寛志正造 340 二六五 二六五 二六六 二六六 小林智昭 二七三

北 恭昭 二二七 533 二六七 二六七 二六七 小杯芳規 三三六 三三六 三三六

来田 隆 二五二 二九〇 三〇八 二六八 二六八 二六八 小杯芳規 三三六 三三六 三三六

三三〇 三三五 163 二六八 二六八 二六八 高山寺典籍文書綜合調査 二四三 174 175

北野 克 二四〇 二四〇 三六九 二七〇 二七一 三三九 小路一光 二九〇

北原保雄 二九二 240 261 262 263 269 河野福海 214

北柯英子 二八 365 二六六 二六六 二六六 河野六郎 二九二

北村何子 二九六 二九六 二九六 神户大学国語研究会 三二七

北山谿太 二八一 58 二九二

北山正迪 149 見野久幸 三三〇

華部了円 二八一 58

見野久幸 三三〇

神户大学国語研究会 三二七

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

三三〇

キ

コ

ク

佐和隆研 5 白井清子 二七四 鈴木敬三 三〇六 322 487

サワタダカズ 二五六 白石大二 二四三 二四五 二四五 鈴木進 三二二 外村南都子 225 226 310 331 513

シ

塩浦林也 三三〇 三三〇 548 進藤義治 二八四 二八四 二八四 二八四 鈴木修次 二七五 二八九 297

塩見 薫 二五五 二八九 348 鈴木智子 二九二 二九二 二九七 田植研究会 290

重見一行 二八一 三〇三 新材 出 二六三 鈴木弘道 521 多賀宗章 三二六

篠田 融 三〇〇 三〇九 菅原真静 二九八 二九八 三〇五 鈴木真喜男 25 252 253 高木市之助 二四四 二四五 二九八

篠原 実 二四三 菅原美枝子 二八六 関一雄 二七二 二八七 高木 武 二四六

柴田良枝 三〇一 菅原寛夫 三〇五 関 靖 二四〇 高島権一 二九三

島田勇雄 二八四 二九二 二九二 菅根順之 三三七 高瀬正一 17

島田友啓 三二四 三二四 三二四 鈴木鳴幸 二四八 高梨敏子 三三七

島原泰雄 二五八 三三三 菅根 一雄 二七二 二八七 高野繁男 387

清水 功 二八七 二八七 三二九 関 靖 二四〇 高羽五郎 二五四 二五四 二五五 二五五

清水瑞枝 三三六 杉本つとむ 二二六 関谷 浩 450 高橋 一天 二八七 三二二 428

清水義秋 三三三 杉山康彦 三〇一 459 関根俊雄 二八四 高橋貞一 二四四 二四五 二七四

下河部行輝 二八六 三〇一 三〇一 雑賀美枝 333 高橋伸幸 二七九 三三三

下坂勝洋 485 鈴木栄一郎 二九九 皆田文雄 二四六 二七七 三三九 高橋六二 二四五 二五一 二五五

寿岳章子 二八一 二九四 鈴木一男 二四八 三〇五 190 高松政雄 二五八 二六二 二六三 二六三

鈴木一彦 三三八 菅田文雄 三三九 109 110 133 134 135 224

菅原美枝子 二八六 関一雄 二七二 二八七 高橋 一天 二八七 三二二 428

菅原寛夫 三〇五 菅根順之 三三七 高野繁男 387

菅原真静 二九八 二九八 三〇五 鈴木鳴幸 二四八 高瀬正一 17

菅原美枝子 二八六 関一雄 二七二 二八七 高橋 一天 二八七 三二二 428

菅原寛夫 三〇五 菅根順之 三三七 高野繁男 387

菅原真静 二九八 二九八 三〇五 鈴木鳴幸 二四八 高瀬正一 17

菅原美枝子 二八六 関一雄 二七二 二八七 高橋 一天 二八七 三二二 428

菅原寛夫 三〇五 菅根順之 三三七 高野繁男 387

二四六 二七五 三〇三

525
526
527

307
308
360
384
439
522
523
524

田村忠士

ツ

寺川喜四男

二六五

テ

チ

191
294
295
306

玉上琢弥

三〇八

都築通年雄

三二

富田大同

二九二

三三八
三八三
三八八
三八八

玉井幸助

291

土田知雄

二八四

栃木孝雄

三〇〇

二八九
二八九
二九二
三三七

田部井喜久枝

286

辻村 明

二三七

栃尾 武

三〇二

二七五
二七五
二七五
二七五

谷光忠彦

二八九

辻善之助

二四八

戸田潜晓

二八五

二七四
二七五
二七五
二七五

谷口典子

366

次田香澄

286

函書寮(宮内省)

75

二五三
二五三
二五三
二六〇

谷岡武城

二九八

121
123
124
125
136
137
284
381

三〇六

富倉徳次郎

二八三

二四八
二四八
二五一

田辺 新

元九

67
68
69
71
72
74
113
114

三二八

富倉徳次郎

二八四

三〇七
481

田辺佳代

150
231

14
15
50
58
60
64
65
66

二四六

時枝誠記

二四六

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

二四三
二九二
三〇八

田中 裕

二四二

三五
三九
3
7
10
13

二四六

東洋哲学研究会

555

永井 滋 二八六 中山緑朗 364

長井真琴 二七六 榎田良照 228 三〇三

中川徳之助 二四〇

中川浩文 二四八 二四八 二九一

長沢智雄 二九二 三〇七 西尾寅弥 三〇八

長島豊太郎 492 西尾光雄 二九四

永島福太郎 三三七 西尾 実 二七九 二九六 二九八

永田敏子 362 西岡欣一 二九八 三〇四 三〇五 三〇五

中田祝夫 三三八 三三八 二四二 西崎 亨 二四七 二八四 二八五

三三四 二四九 二五七 二五九 根来 司 二四三 二七八 二八三

二七四 二九七 二九九 三四 三九六 三三三 334 361 458 486

三二五 三三五 6 55 63 115 西田直二 498 532 534 544

552 西田直敏 二四五 三〇〇 三〇一

永積安明 二四二 二四七 二九三 三〇一 三〇六 三〇六 三〇六

二九六 二九七 二九八 三〇一 三〇六 三〇八 三〇八 三〇九

三〇五 三〇六 三〇六 241 三〇九 三〇九 三〇九 三三〇

甲性 哲 二八五 三三〇 293 457 三〇四

中野稜三 三〇七 西畑 実 三〇四

名古屋茂郎 287 西端幸雄 三三八 三三八 三九八

中村宗彦 93 335

永山 勇 三三七 三三〇 三三〇 西宮一民 三九九 三三三

西村アサ子 三〇四 510

又

沼本克明 二五五 二五八 二六一

三六二 二六二 二六三 二六三

二六四 二六四 二六五 二七二

二七三 二七三 二七三 三三三

11 245 248 271 272 273

ネ

橋本進吉 二四三 二四九 二五六

三三七 三三七 二五七 二五七 二五七

二五七 二六二 二六一 86

橋本仲美 山口仲美

二九四 二九四 三〇三 三〇三

橋本不美男 三四 515

長谷川敏正 三一九 三〇六

服部四郎 二四九 二六八

服部嘉香 三〇八 470

淡口博章 三〇五 503

淡田 敦 三三六 三五九 三五九

二五九 二五九 二五九 二六〇

二六〇 二八三 197 353

164 三〇一 二七八 二七八

三〇二 三〇二 二七八 二七六 三三六

八

滝谷 紘子 三〇〇

林 史典 二八三

林 義雄 229 二五五

林和比子 444

原 栄一 二八〇 二八〇 二八〇

二八〇 二八〇 二八〇

松島興雄

二八六

二七六 二七九 二九八 三〇二

宮田和一部

二八四 二八四

松材 明

二四三 二四九 二九二

三

三〇三 三〇〇 36 324 535

宮地敦子

314 318 367 371 372

2

松材一雄

二七六

三浦和雄

二五一

峰村文人

283

三吉 陽

二六三

松材晴義

二六八

三上悠紀夫

二七四 二八一

御橋惠言

二六六 二七八

三浦和雄

三〇九

松材博司

二七八

三九一 三二二

三保忠夫

三九 三九 118 119

△

松本 暎子

二五一

三下尻浩

499

三村晃功

130 167 172 402 537

虫明吉次郎

三〇八

松本 宙

二六〇 二六一

三沢光博

二九六

宮川康雄

505

村上久子

312

松本彦次郎

476

水沢利忠

79

宮腰 賢

三〇八

村井 順

三九六 467

馬淵和夫

二四九

水田紀久

二四七 103 227 246

三宅武郎

二五〇

村上雅孝

二五八 三一八 117 370

二五七 二五七 二五七

水谷麗子

二九七

三宅ちぐさ

46

村田正英

213

二六二 二六六 二六八 二七五

水野 清

二九〇

宮崎円達

二四八

材本恒子

三〇四

二八九 三三五 三三〇 三三〇

水野弥穂子

二五五 二八九 193

宮取和江

三〇〇 三〇〇 424

材本恒子

三〇四

三三二 三三二 三三二 三三二

水野良子

三〇二

↓ 岡村和江

二八〇

□

三三三 三三三 三三三 三三三

三ツ橋忠二

二八六

宮崎 徳

二八〇

望月郁子

二三八 二九九 二六六

三三三 三三三 三三三 三三三

水原 一

二七八

宮沢俊雅

三三四 三四 18 19

望月郁子

二三八 二九九 二六六

三三二 三三二 三三二 三三二

南不二男

二七〇 二九五 三〇〇

宮島達夫

二七三

三三〇 二七〇 二七一 二七一

180 234 268 545 546 547

南里みち子

二五一

宮田裕行

二七四 二七六 二七六

三三二 三三四

二七七

二四一

嶺 光雄

二四八 二八三 三〇四

三一九 二八九 二九三 二九三

桃 裕行

二七七

289

峰岸 明

二五二 二五三 二五五 二五六

三三三 二九七 二九七 三三〇

森 孝宏

265

丸山 季夫

丸山 嘉信

二五二 二五三 二五五 二五六

185

森重 敏

三〇八 三〇九

二二九 二四一 二四二 二四一

和田利政 三〇八 三三〇

岸岡民子 133 134 135

田口陽子 524

二四一 二四一 二四一 二六〇

渡辺 修 二二七 二三八

木村 晟 三三七

田辺佳代 150

三七七 二八七 三三二 三三四

渡辺 綱也 二三八 249

金田一春彦 三六五

塚原鉄雄 280

20 21 43 73 105 132 207 355

渡辺 三男 二八五 二八七

熊本女子大 国語学研究室 529

次田香澄 三三七

493 495

渡辺 実 二七九 二七九

久留宮京子 524

津藤千鶴子 三三七

三三七

桑原博史 二九〇

寺内純子 513

三三七

三〇九

小池 一行 三三二

小池清治 三三二

東京教育大学 国語部 国文学会 三三二

三〇九

小林 勿枝子 三三一

永田信也 三〇

三〇

三〇九

近藤 敦美 三二九 三二九

中材悦子 526

三二八

三二九

坂入 啓子 三三一

中山 祿郎 525

三二八

三二九

坂田 友宏 三三一

西岡真佐子 525

三二八

三二九

佐々木 峻 三五〇 537

西村真一 525

三二八

三二九

猿田 知之 三三八

丹羽一 憲 522

523

三二九

柴崎 陽子 513

沼本 克明 537

537

三二九

島田 勇雄 二四一

野沢 勝夫 三〇

三〇

三二九

清水 功 三二九

浜田 敦 280

280

三二九

菅原 乾夫 537

樋口 芳麻呂 517

517

三二九

須田 幸子 二八六

土方 弘美 527

527

三二九

高木 進 三二七

平林 千 恵 539

539

三二九

滝沢 貞夫 515

祐川 紀子 二五六

二五六

三二九

竹本 義明 三二七

広 汎 文 雄 51

51

三二九

若山 明子 357

若山 明子 357

357

三二九

若林 芳樹 325

若林 芳樹 325

325

三二九

我妻 建治 344

我妻 建治 344

344

三二九

若杉 哲男 42 二五〇

若杉 哲男 42 二五〇

42 二五〇

三二九

龍谷 大学 真宗 学会 三二二 三三二

龍谷 大学 真宗 学会 三二二 三三二

三二二 三三二

三二九

笠 栄 治 三〇〇 三〇六 三二九

笠 栄 治 三〇〇 三〇六 三二九

三〇〇 三〇六 三二九

三二九

頼 惟 勤 276

頼 惟 勤 276

276

三二九

龍谷 大学 真宗 学会 三二二 三三二

龍谷 大学 真宗 学会 三二二 三三二

三二二 三三二

深野浩史	三二
福田益和	三〇
福永順	一五五
藤井隆	五一七
細田悦子	三一九
牧野泰子	二九八
馬淵昌子	三〇〇 三三二 三三一 三二一
峰岸明	三三四
耳野紀久代	三三七
曾沢俊雅	五三六
村田秋男	五三八
山口秋穂	三二六
横浜国立大学東鑑之会	五三五
横山登茂子	三三二 五四五
和田克司	三三〇
渡辺輝道	五二二

二八五 二八五 二八六 二八六

二八七 二八七 二八八 二八八

二八九 二八九 二八九 二八九

二九〇 二九〇 二九一 二九一

二九一 二九二 二九七 二九七

二九二 二九三 三〇〇 三〇〇

二九三 二九三 三〇〇 三〇〇

二九四 二九四 三〇一 三〇一

二九七 二九七 三〇一 三〇一

三〇〇 三〇〇 三〇二 三〇二

三〇一 三〇一 三〇二 三〇二

三〇二 三〇二 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

三〇三 三〇三 三〇三 三〇三

廿

三寶繪詞 二四七 二四七 二四七 二四七 482

四條宮下野集 二四七 二四七 二四七 二四七

十訓抄 二四七 二四七 二四七 二四七

悉曇藏 二五五 二八八 二九七 三〇一 二七二

四部合戰狀平家物語 三〇一 三三〇 183 184 217 228

三寶類字集 237 472 二二九 二二九 二二九 二二九

詩苑韻集 二四一 43 495 二四一 43 495

詞華集 二四一 43 495 二四一 43 495

史記孝景本紀 78 79 拾遺和歌集 二九七 二九七 二九七 二九七

式子内親王歌集 514 十三代集 二八四 二九四

自行三昧礼功德義 三九 167 聚分韻略 二〇〇 二〇〇

字鏡 二四〇 二四〇 二四〇 二四〇 二八二

字鏡抄 二四〇 二四〇 二四〇 二四〇

字鏡鈔 二四〇 二四〇 二四〇 二四〇

四座講式 二六六 二六六 二六六 二六六

私聚百因縁集 二五二 浄土教古文獻(叢山) 4

(古) 辞書 二二七 二二七 二二七 二二七

尚書 三三二 三三二 三三二 三三二

成尋阿闍梨母日記 二九八 浄土三部經 553

消息詞・書狀文字抄 172 正法眼蔵 二四八 二四八

三帖和讃 二四八 二四八 二四八 二四八

三代集 二八四 二八四 二八四 二八四

三十六人集 二五一 212 二五一 212

三教治道篇 114 363 492

山家集 287 475

實朝閑係 三二 285 春秋経伝集解 80 81 82

讀阿弥陀仏偈和讃 三〇七 俊成閑係 三〇四 516

讀岐典侍日記 三〇八 388 389 390 391 392

昨夢紀事 三七五 俊成閑係 三〇四 516

152

284
363
492

書札札 ↓古往來	二四四	節用集大全	6	蘇悉地羯羅經略疏	二九九	太平記	三四六 三四六 二四六 三四六 二四六
書簡作法書	三〇八	節用集	三四三 41	蘇悉地羯羅經	二三九	大般若經音訓	二三七 16
諸苑韻集	二四一	42 46 47		120 310		大般若經字抄	二三七 16
145 160 534				116 117 118 119		大毘盧遮那成佛經	127
澤門記	276	世俗字類抄	三四〇 三四〇	121		310	
二六七 二六九 二七〇		世俗諺文	270 421 544 268	504		479	
二六七 二六七 二六七 二六七		水言抄	三四二 350	479		530	
三五六 三五五 三三二 三三二		親鸞遺文	三四八 二四八	三四七		二六二 126 243	
443		神皇正統記	二九四 三〇〇 477			二六二 126 243	
三〇三 三三三 三三三 三三三		泰中吟	三三三 三五五 84			二六二 126 243	
三〇三 三三三 三三三 三三三		新猿樂記	467 473 474			二六二 126 243	
295 306 307 308 360 380 384 439		秦中吟	三三三 三五五 84			二六二 126 243	
		神道集	三九			二六二 126 243	
正法眼藏隨聞記	三六〇 二九七	神皇正統記	二九四 三〇〇 477			二六二 126 243	
正法眼藏抄	三〇四	親鸞遺文	三四八 二四八			二六二 126 243	
正法眼藏隨聞記	三六〇 二九七	雜談集	三四八 二四八			二六二 126 243	
三〇三 三三三 三三三 三三三		僧綱補任・僧歷綜覽	三四七			二六二 126 243	
443		曾我物語	三二二 479			二六二 126 243	
		純詩花集	三二二 479			二六二 126 243	
三〇三 三三三 三三三 三三三		息心抄	三二二 479			二六二 126 243	
三〇三 三三三 三三三 三三三		蘇悉地羯羅經	116 117 118 119			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	
303 304 304 307 307		戰記物語	442 456 449			二六二 126 243	

夕

三〇一 三〇一 三〇六 三〇〇
478

田植草紙 151 432 506 507

田頃濱料 112 290

男衾三郎絵巻詞書 三三八

歎異抄 二四八 二七四 二九一

三〇三 三〇三 三〇七 三〇七

三〇七 三一一

中外抄 二五五

勅撰集 332

塵袋 二四一 二四一

徒然草 二四三 二四三 二四三

二九〇 二九二 二九二 二九四

二九六 二九六 二九六 二九七

二九七 二九七 二九七 二九七

二九九 二九九 二九九 二九九

二九九 二九九 二九九 二九九

二九九 二九九 二九九 二九九

三〇〇 三〇五 三〇五 三〇五

三〇五 三〇五 三〇五 三〇八

三〇八 三〇八 三〇八 三〇八

三〇八 三〇九 三〇八 三〇八

三三八 6 157 341

85

帝範臣軌

傳法灌頂師資相承血脈

蒙隸万象存義 7 531

蒙隸万象存義 18

東関紀行 二九七 529

東急文庫藏本 72

東国節在二文獻 三一二

唐征伝絵詞 147

当麻曼茶羅縁起詞書 三三八

童蒙頌韻 二四〇

土左日記 二五六

とほずがたり 二八四 二九四

三〇五 三〇八 291

豊明絵草子 526

とりかへばや物語 521

唐大和上東征伝 501

敦煌變文 二四六 二七五

ナ

南无師殊陀仏作善集 二四七 543

日蓮還文 二四八 二四八 二五一

二五六 二七九 二八五 二八五

二八五 二八五 二八七 二八八

二九一 二九一 二九一 三〇四

三一一 三一一 三一一 三一一

三〇五 三二二 194 195

日蓮聖人註画護 二五一

日本往生極樂記 二八〇 551

日本書紀 二八九 二八九 二九九

二七五 三二三 83 140 141 142

日本文典 二七六

311

ハ

白氏文集 二四六 二六四 86 87

88 89 227 502 523

八字文殊儀軌 128 129

八代集 二七七 二八五 二八六

二九〇 三〇五 三〇八 334 352

365 366 427

葉月物語絵巻詞書 527

般若心経 221 246 296

百人一首 二八七

地藏宝鑑 133 135 136

百舌往来 533

表白集 二四四

風雅集 二八六 286

風経 二六二

代見密文机説 169

藤原定家類集 二五二 二五二 二五四

二五五 二五五 二五五 二五六

二五六 二五六 二五六 二五六

二五六 二八九 三〇四 三〇四

三三六 三三六 213 232

法華經音 二六二 万葉集 三三七 二六七 山路の露 二六九 二七〇 二七〇

法華經音訓 三三五 三三五 明慮上人歌集 三三二 三五四 遊仙窟 三六一 四二 四〇 九五 九六 五二〇

法華經釈文 二七二 一三二 三三七 三三七 明慮上人資料 二四三 三七九 義経東下り物語 一〇五 一〇六 三〇四 四九九 三七

法華三部經 一九 五五四 明慮上人夢之記 三一九

法華経半字 二四一 三三五 三三五 439 明衡往来 四七〇

法華栞釈 一三二 名語記 二四〇 二四〇 二四〇 落葉集 二五五

法華百座闍書抄 二四七 二四七 冥報記 二五〇 二四〇 二四〇 深塵秘抄 二五二 二五一 二五六

法華心集 二五五 二五五 三三三 無名草子 三三九

二七六 二八〇 二九一 三〇〇 無量壽舞 念誦次第法 二二六

三〇〇 三〇〇 三三〇 三三〇 明題和歌集 三三七 三〇八

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 蒙求 二六一 二六二 三二六 深塵秘抄口伝集 一三九 一五五 三二五 三三九

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 蒙求和歌 九〇 一五六 九〇 一五六 類聚和義抄 二二七 二二七 二二七

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 蒙古藥求絵詞詞書 三三八 和漢朗詠集 二五〇

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 物語休説語 二七四 二九五 和讀出葉 一五三 二四八

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 物語和歌 五二七 倭点法華經 二四二

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 文書 二四六 二八一 和名類聚抄 三三九 二六六

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 文選 二四六 九二 九三 九四

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 增鏡 二四四 三四四 五三八

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 松浦宮物語 二八一 二九八 三三七

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇 松葉名所和歌集 五二八

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

三三〇 三三〇 三三〇 三三〇

四三四